

●公益財団法人 日本社会福祉弘済会 助成

「新しい始まり」 特別教育プログラム ～性的虐待の被害者たちへの心理的支援と教育支援～

The Philippines フィリピン

氏 名 Josefina M. Dimalaluan カッチ（17期）

所属団体 クリブス財団



50年以上にわたり脆弱な子どもの保護・養育を行う当団体では、性的虐待の被害に遭った少女たちの心身の回復と社会復帰をめざすプログラムを実施しました。これまでは心理的ケアに特化した支援を行ってきましたが、治療の長期化による教育の遅れが、少女たちの将来の選択肢を狭める要因となっていました。そこで本事業では、従来の専門的な心理治療に加え、同時に学習・教育支援にも注力する新しい統合アプローチを導入しました。これにより、少女たちがトラウマを克服しながら本来の学びを継続し、被害によって将来の夢を諦めることなく、前向きに自立した未来へ歩み出すための包括的なサポートを行いました。

所属組織の概要

1974年に設立された非営利団体で、50年以上にわたり、遺棄・虐待等を受けた脆弱な子どもたちの保護と養育に取り組んでいます。乳幼児向けの「レシービング・ホーム」と、性的虐待を受けた少女たちの回復を支援する「ニュー・ビギニング」の2つの居住型プログラムを運営しています。

事業の目的

本プログラムでは、性的虐待の被害を受けた少女たちを保護し、心理ケアを行うことで、心身の回復、そして社会復帰をめざします。

これまで、性的虐待を受けた少女への支援は「心理的な回復」に特化して進めてきました。しかし、心理的な支援が長期化すると、本来、受けるべき教育が後回しになってしまい、被害によって将来の夢を絶たれるケースが相次いでいました。そこで、今回、心理的な治療を行いながら、同時に教育支援にも力を入れ、被害に遭った少女たちが夢を諦めず、前向きに生きていくことをめざした支援を行いました。

活動地域

フィリピンのリサール州アンティポロ市の入所施設内

対象者

マニラ首都圏および近隣の地域出身の性的虐待の被害を受けた7歳から17歳の少女30名。



事業の成果

本事業は、性的虐待を受けた子どもたちに対し、心理的支援と教育支援を同時に行う環境を整えました。包括的な教育は、少女たちの「癒やし」「回復」「社会復帰」において極めて重要な役割を果たします。学習面での進歩にとどまらず、自らの強みを再発見し、自分自身や他者との間に健全な関係性を再構築していくことができます。主な成果は以下の通りです。

1. 基礎学力と学習意欲の向上

支援対象児は、総じて順調に学業に取り組み、基礎能力の向上や新たな学習スキルの習得が顕著に見られています。一部に個別の課題を抱える子どももいますが、継続的なサポートにより前向きな学習姿勢が維持されています。

2. 教育体制の充実による子どもの精神的な安定

教師に対し適切な手当を支給することで、安定した教育支援体制を整えることができました。それにより、知的障害がある子どもに対する個別指導(特別支援教育)の時間が増えました。また、教育体制の安定化は、大人への信頼感や健全な愛着関係、心の安定を育むうえで重要な役割を果たしています。

3. 環境整備による効果的な学習と活動の実現

2025年12月に導入した新規の教室用備品を効果的に使用した授業を実施しています。教室に設置するスピーカーを購入し、動画を使用した授業ができるようになりました。文字・絵だけでは理解が難しい子どもも、音声付きの動画を使用することで、内容を理解できるようになりました。

また、アクティビティの幅も広がり、積極的に活動に参加する子どもが増えました。他者と良好な関係を築くために重要な時間です。

4. 課外活動の充実による社会性の向上

言語や数学等の授業に限らず、食育や季節の行事等の活動を増やしました。これらの活動のなかでは、他者とディスカッションする時間や、学びや自分の考えを発表する時間を設けています。「大勢の人の前に立って堂々と振る舞える」という経験は、自己効力感をつくり、社会性向上や豊かな情操教育につながったと考えます。

実施内容

効果的な計画を検討したうえで、主に次のことに取り組みました。

1. 教職員へのオリエンテーションと研修

支援対象児に関わる教師・職員に対し、オリエンテーションと研修を実施しました。これにより、本プログラムの理念と指導メソッドに対する共通認識を形成し、教員間の密接な連携体制を構築しました。

2. 教育の充実に向けた学習環境の改善

教職員の研修のなかで、「授業や課外活動を充実させるため、ハード面での学習環境づくりも大切ではないか」という意見が出ました。そこで、年間の授業・活動計画をつくることと同時に、必要な機材等についても検討を始めました。発達に特性がある子どもにとって、口頭や文字での説明だけではなく、動画等を適切に使用することが重要だと考えています。そこで、スピーカー等の機材を購入し、学習環境の改善に取り組むことにしました。



教室用スピーカーは、授業内での動画視聴、課外活動で活用しています。課外活動では、アート活動、ヨガセッション、ズンバ等が人気で、子どもたちが仲間とともに笑顔で過ごす時間が増えました。

3. 教育の実施と心の支援

公式の学校カレンダーに準拠した授業を行っています。また、特定のテーマに基づき各教科を横断的に学ぶ「テーマ別・統合的学習メソッド」を採用しています。

子どもたちは、性的虐待の経験から、注意力が散漫になったり、急に精神状態が不安定になったりすることがあります。教職員の丁寧な伴走と励ましが、非常に重要です。また、自分の将来を悲観的に考え、前向きに学習に取り組めない子どももいます。すべての勉強を「難しすぎる」と言って諦めかけている子どももいました。



しかし、その背景にある経験や心の傷を理解して丁寧な関わりを行い、伴走しながら一緒に勉強することで、難しい問題を理解して良い成績をとれるようになる子どもがいました。「成績が上がった」という成果だけではなく、将来を前向きに考える自信につながっています。

4. 豊かな体験を創出する課外活動

学習の深化と社会性の向上を目的として、さまざまな行事・課外活動を実施しました。例えば、学校清掃活動、食育、クリスマス祝賀会等です。

ある課外活動では、希望者がモデルのようにランウェイを歩く企画を行いました。普段は、さまざまな理由で外部の活動に参加できない子どもも多くいます。しかし、まずは教職員や仲間といった安心できる環境のなかで、自己表現をすることが非常によい経験になるのではないかと考えています。



今後の展望

本助成期間の終了後も、私たちはこの事業を継続し、さらに活動を充実させたいと考えています。今後、国内外のパートナーと連携し、リソースの確保に努めることで、性的虐待により心身に傷を負った少女たちを癒やし、回復のための支援をしていきます。また、その過程において、今回の助成により取り組むことができた「質の高い教育」と「包括的な支援」の体制を維持します。彼女たちが尊厳と希望に満ちた、自立した実りある未来を築けるよう支援を続けていきたいと思っています。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	318,000	
合 計	318,000	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
1. 学用品	13,250	教材のコピー代など
2. 学校設備	63,600	音響システム、ルーター、配線等
3. 月次活動費	55,650	3,000 PHP/月×7ヶ月分（6月～12月）
4. 教師交通手当	185,500	教師4名分×7ヶ月分
合 計	318,000	

注）ペソ（PHP）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 ペソ≒2.65円（2026年5月15日の為替レート）